



共に挑もう、共に超えよう。

皆さまと共に、10年先の豊かさがある未来を見据えて

共同印刷グループは理念体系を刷新。

「共にある未来」を実現するための私たちの歩みと想い、

そして変革への取り組みをご紹介します。

I 会社概要

会社概要

社名	共同印刷株式会社
----	----------

本社所在地	東京都文京区小石川4-14-12
-------	------------------

設立	1925(大正14)年12月 ※創業1897(明治30)年6月
----	---------------------------------

資本金	45億1千万円
-----	---------

従業員数	連結3,136名 単体1,912名 (2026年3月31日現在)
------	----------------------------------

上場市場	東京証券取引所 プライム市場 (コード:7914)
------	---------------------------

1897年（明治30）	創業：博文館主大橋佐平、現在の銀座6丁目に博文館印刷工場を創設（翌年小石川に移転）
1925年（大正14）	設立：博文館印刷所と精美堂が合併し共同印刷株式会社発足
1964年（昭和39）	小田原工場竣工：関東地区におけるラミネートチューブ製造拠点
1981年（昭和56）	鶴ヶ島工場竣工：ビジネスフォーム・証券類・カード製造拠点
1987年（昭和62）	守谷工場竣工：紙器・軟包装・高機能フィルム製造
1991年（平成3）	和歌山工場竣工：関西地区におけるラミネートチューブ製造拠点
1993年（平成5）	五霞工場竣工：週刊少年ジャンプを中心とする出版商業印刷の生産拠点
2002年（平成14）	川島ソリューションセンター竣工：データプリント・BPO拠点
2007年（平成19）	播磨坂スタジオ竣工：キッチンスタジオを有する撮影スタジオ
2015年（平成27）	ベトナム工場竣工：ASEAN初のラミネートチューブ製造拠点
2017年（平成29）	インドネシアのArisu社連結子会社化：ASEANでのラミネートチューブ事業拡大
2018年（平成30）	コーポレートブランド TOMOWEL 導入
2019年（平成30）	共同ブローボトル連結子会社化：ブローボトル製造拠点
2022年（令和4）	小石川本社 新社屋竣工
2025年（令和7）	理念体系刷新、長期ビジョン「NexTOMOWEL2034」策定

事業拠点

情報コミュニケーション部門

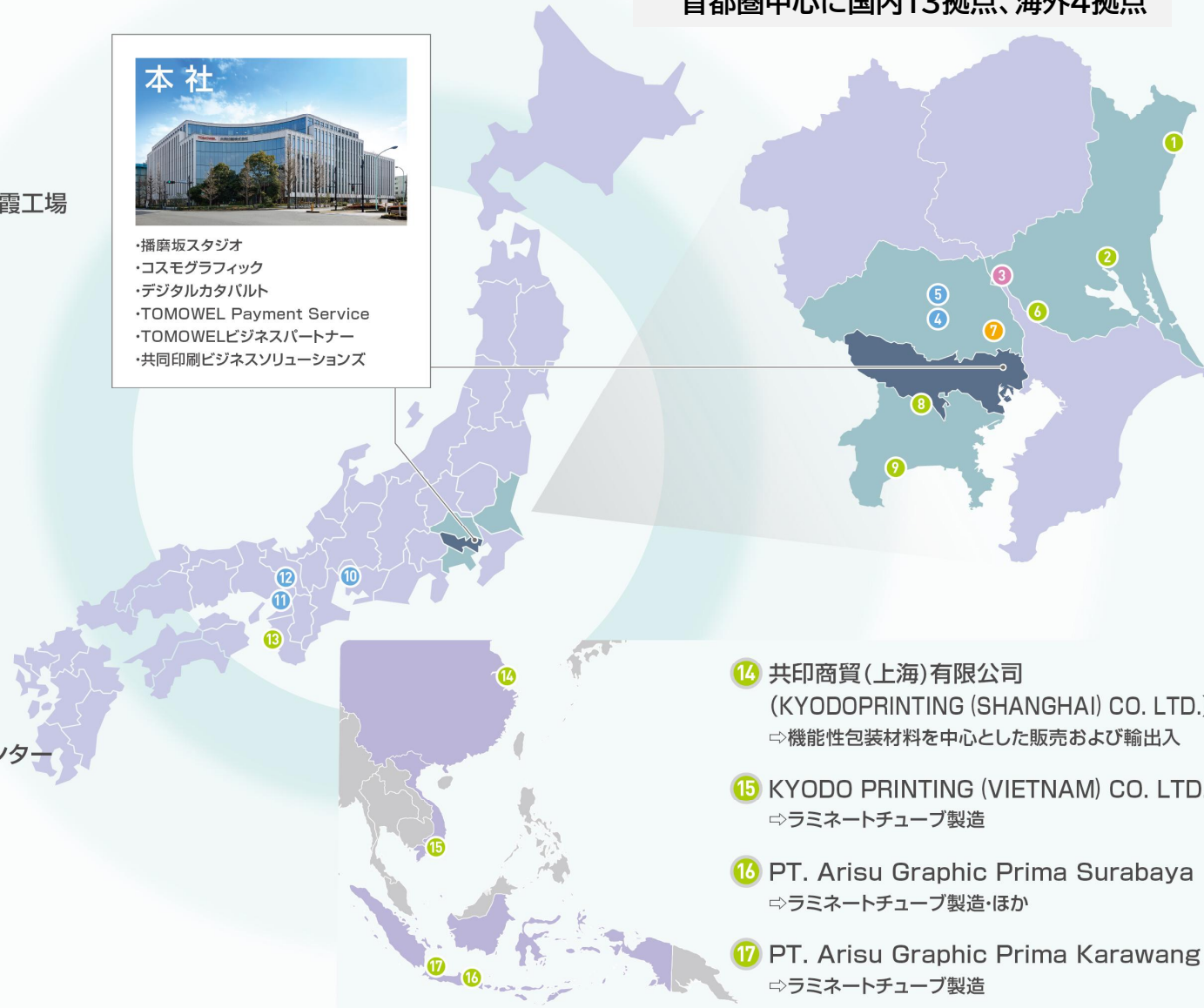
情報セキュリティ部門

生活・産業資材部門

その他(グループ会社など)

首都圏中心に国内13拠点、海外4拠点

- ① 常磐共同印刷(株)
⇒ 建装材印刷、ブローチューブ製造、ほか
- ② 共同ブローボトル(株)
⇒ ブローボトル製造
- ③ 共同印刷メディアプロダクト(株)／五霞工場
⇒ 刷版、印刷、製本・加工
- ④ 鶴ヶ島工場
⇒ カード製造・発行、証券印刷
- ⑤ 川島ソリューションセンター
⇒ ビジネスフォーム、データプリント、BPO
- ⑥ 守谷工場／共同NPIパッケージ(株)
⇒ 紙器・軟包装
- ⑦ 共同物流(株)／首都圏物流センター
⇒ 輸送、梱包・保管、アセンブリ
- ⑧ 相模原工場
⇒ ラミネートチューブ製造
- ⑨ 小田原工場
⇒ ラミネートチューブ製造
- ⑩ 共同印刷西日本(株)名古屋カードセンター
⇒ カード製造・発行、BPO
- ⑪ 共同印刷西日本(株)
- ⑫ 京都工場
⇒ ビジネスフォーム、データプリント、BPO
- ⑬ 和歌山工場
⇒ ラミネートチューブ製造



- ⑭ 共印商貿(上海)有限公司
(KYODOPRINTING (SHANGHAI) CO. LTD.)
⇒ 機能性包装材料を中心とした販売および輸出入
- ⑮ KYODO PRINTING (VIETNAM) CO. LTD.
⇒ ラミネートチューブ製造
- ⑯ PT. Arisu Graphic Prima Surabaya
⇒ ラミネートチューブ製造・ほか
- ⑰ PT. Arisu Graphic Prima Karawang
⇒ ラミネートチューブ製造

Ⅱ 事業紹介

(主要な製品・サービス)

事業紹介 生活・産業資材



■チューブ(ラミネートチューブ・ブローチューブ)・ブローボトル

○ラミネートチューブ製造の国内トップメーカーとして、化粧品・医薬品・歯磨き・食品向けのチューブ容器を提供

○ベトナムとインドネシアに製造拠点をもち、ASEAN地域に高品質のラミネートチューブを提供



モイストキャッチ®と使用製品イメージ

■産業資材(高機能フィルム)

○医薬品やエレクトロニクス部品向けに高機能フィルムを提供
基盤となる樹脂にさまざまな機能性素材を練りこみ、
高い機能性を持つフィルムを製造
現在、この技術をもとに多様な製品開発を推進

■パッケージ(紙器・軟包装)

○食品や日用雑貨、医薬品などのパッケージ製造、商品のネーミングやパッケージデザイン、販促プランなども提案

○使いやすく安全性に配慮した設計や、リサイクル適性、省プラスチックなど、環境へ配慮した包装材の開発

事業紹介 情報セキュリティ



各種ICカード Suicaは東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。PASMOは株式会社バスモの登録商標です。TOICAは東海旅客鉄道株式会社の登録商標です。nimocaは西日本鉄道株式会社の登録商標です。



証券類(宝くじなど)

■データプリント、BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)

- 高度なセキュリティ環境を持つ自社工場内にて、顧客情報を専用プログラムで編集し、データプリント～封入封緘～発送までワンストップで提供
- データプリント周辺の事務作業、システム構築、顧客対応などの業務を一括受託するBPOの提供
- 自治体・金融機関中心に、業務改善、ペーパーレス化を支援するシステム開発・運用の受託拡大に注力

■ICカード・乗車券／宝くじ

- 各種ICカードの製造・発行と関連するソリューションを提供、特に交通系ICカードはトップシェア
- 各種宝くじの製造および特急券をはじめとする乗車券用紙の製造で高いシェア
- グループ会社のTOMOWEL Payment Serviceが、法人向け小口決済システム「Bizプリカ」を提供

事業紹介 情報コミュニケーション

■出版印刷

- 集英社の「週刊少年ジャンプ」を1968年の創刊時から受注してきたことから、まんがに関連する分野に強み
- 図鑑・絵本などの児童書分野も得意

■一般商業印刷

- 自社スタジオと制作チームを有し、カタログや情報誌を企画～撮影～編集～製造までの一貫生産体制
- 店頭販促分野に強く、特に販促什器については化粧品・日用品メーカーや家電メーカーから高い評価
- 制作の強みを生かし、IR領域(統合報告書制作、株主優待事務局など)の支援業務を拡大



店頭用販売什器・POP



ニューノーマル時代に
求められる店頭販促のDX実現



雑誌・書籍

■オリジナルコンテンツ開発

- 企業の商品プロモーションおよび企業内研修用向けなどにオリジナルコンテンツを開発・販売
- まんが・アニメのコンテンツを生かしたイベント企画、グッズ制作
- オリジナルのデジタルコミック企画制作・販売



学びを提供する「YorisoWeL」のサービスページ

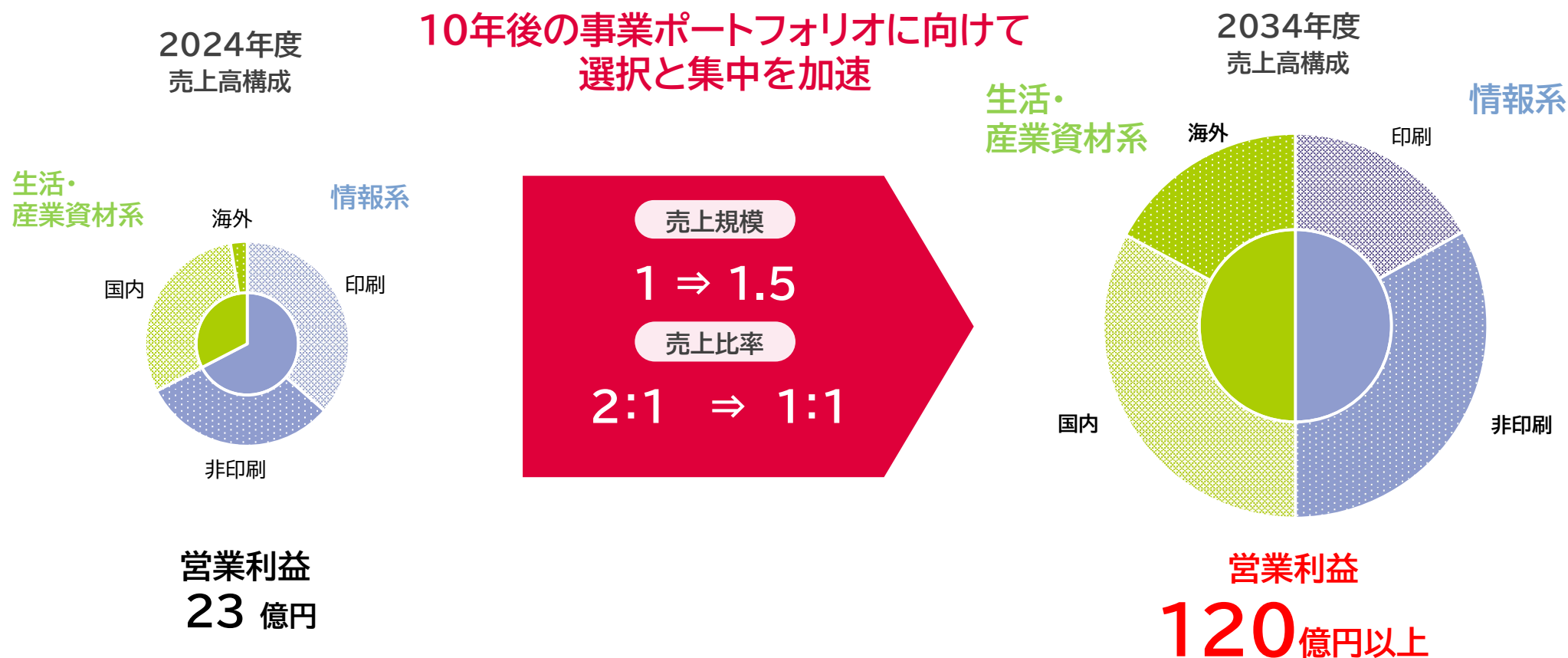


Ⅲ 共同印刷グループのめざす姿

～長期ビジョンNexTOMOWEL 2034～

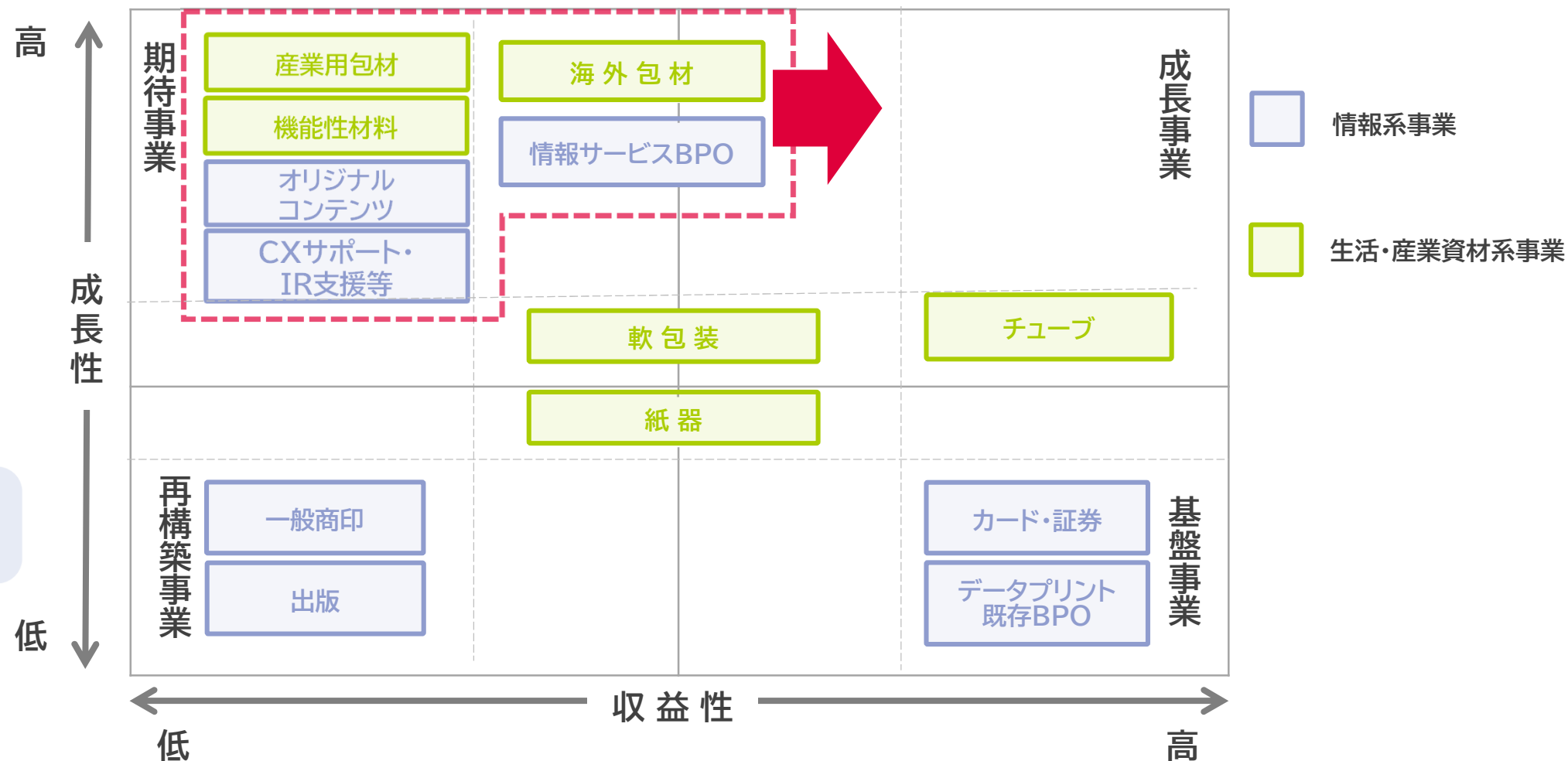
長期ビジョン 長期戦略の概要(2025年度を起点に10年間)

情報系は印刷から情報サービス(非印刷)へ重心を移行し、情報加工を中心とした質の高いサービスを提供
生活・産業資材系は、技術力を核に高付加価値製品を開発し、海外を含む成長市場・事業分野への展開を強化



長期ビジョン 事業ポートフォリオ

基盤事業は効率化を追求し、獲得したキャッシュを期待事業への投資に振り向け成長事業へと育成
再構築事業は収益性を見極め構造改革。事業資産の入れ替えを進め、ROIC向上をめざす



2027年4月【予定】
出版事業組織再編

2025年3月に
コスモグラフィック
苫小牧工場を閉鎖

長期ビジョン 投資の概要

2034年度までの10カ年で総額700億円規模の投資を計画

成長投資

430億円程度

設備投資

拡大分野における生産体制増強

M&A

新事業領域の拡大や海外展開を中心に検討

人的投資

事業ポートフォリオに基づく人材育成(リスクリング含む)、
注力事業分野へ人員増強、イノベーションにつながる人材確保

研究開発

新規売上創出のための製品・サービス開発に注力

既存事業への投資

270億円程度

既存事業の省人化・生産性向上に向け、
DX投資・設備投資を積極的に行い、効率化

IV 共同印刷グループ 2025～2027年度中期経営計画

中期経営計画 中期経営目標

中期経営計画 定量目標(～2027年度)

- 2025～2027年度の3カ年を長期戦略のファーストステップと位置付け、既存事業の基盤強化と成長領域への果敢な挑戦によりポートフォリオ変革の足場を固める
- 事業戦略を支える財務戦略、サステナビリティ経営の深化や人的資本の強化にも注力

営業利益

45億円 以上

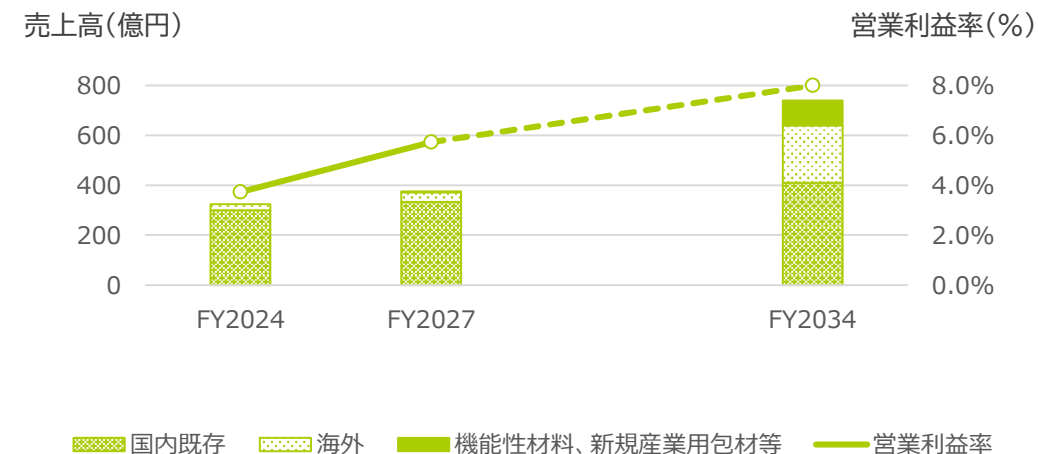
ROE

8% 以上

中期経営計画 各事業の計画概要

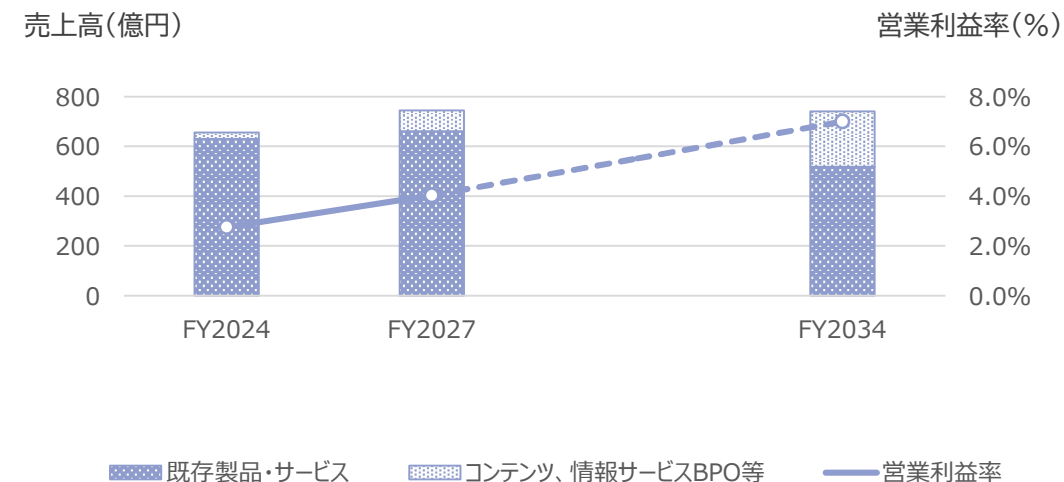
生活・産業資材系事業

- 国内既存製品の収益性向上
 - －適正な価格戦略の実行
 - －化粧品向けチューブなど高収益製品への入れ替え促進
- 海外事業の拡大
 - －インドネシアを中心にチューブなど既存製品の拡大
 - －事業拡大に沿った積極投資
- 製品ラインアップの拡充
 - －機能性材料の開発と拡販による用途拡大
 - －高成長・高収益が見込まれるBtoB産業用包材分野への参入探索



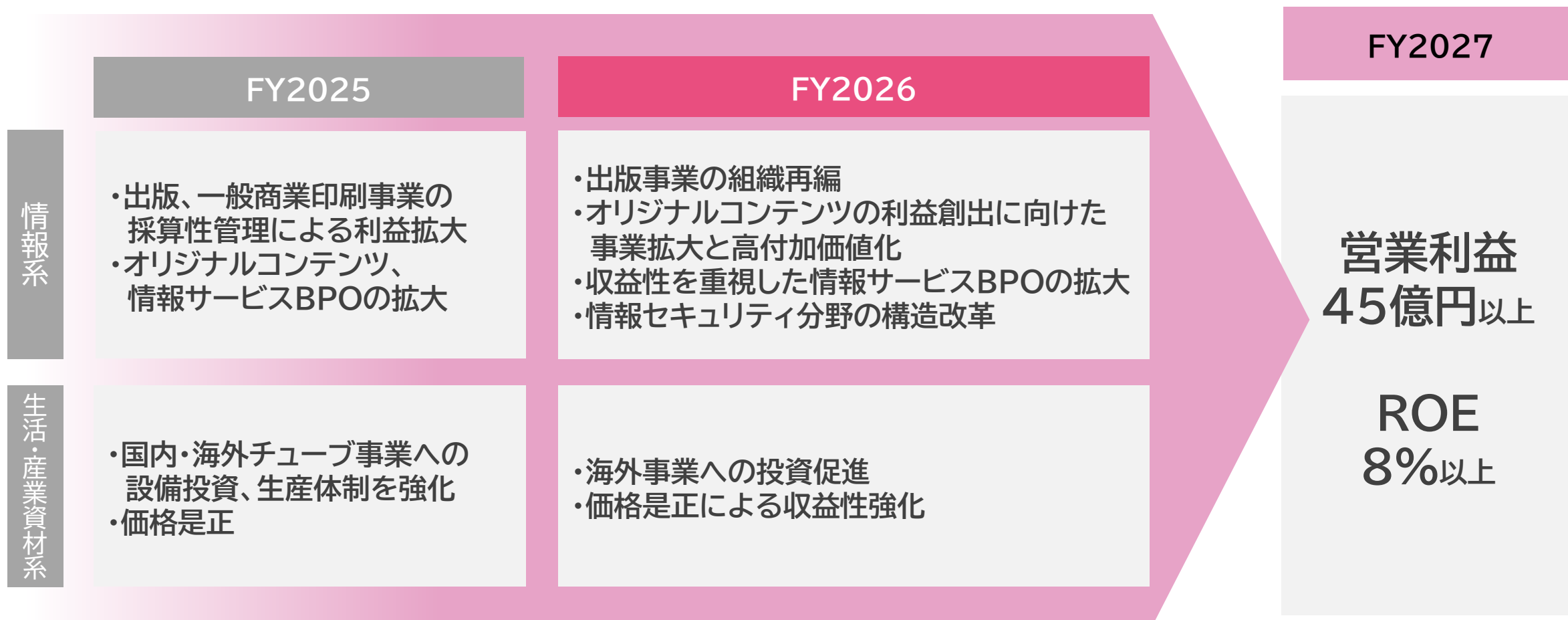
情報系事業

- 成長事業の育成・拡大
 - －ヘルスケア分野での情報サービスBPOへ注力
 - －オリジナルコンテンツ事業の育成
- 既存媒体事業の取捨選択
 - －投資効率性による見極め
 - －需要動向に応じた体制の見直し・最適化



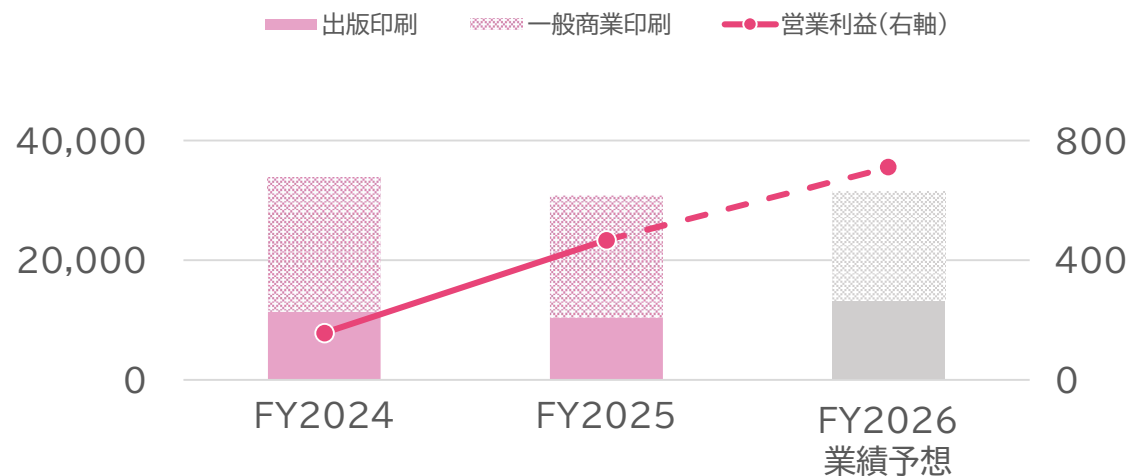
中期経営計画の進捗 進捗の概要

- ✓ FY2025は、営業利益の定量面では課題も、既存事業の強化は一定の進捗
- ✓ FY2026は、既存事業の構造改革と成長領域拡大の取り組み継続によって高収益構造へのシフトを進め、中期経営計画の目標達成を目指すとともに、長期ビジョン達成のための下地をつくる。



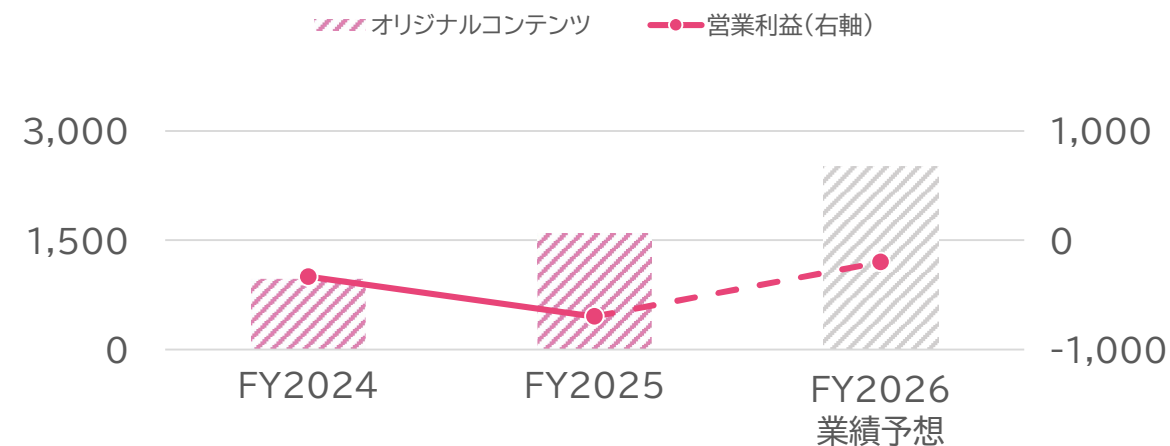
中期経営計画の進捗 情報コミュニケーション部門の収益性向上に向けた今後の取り組み

出版印刷・一般商業印刷



- ・紙媒体を中心に、採算性を重視した受注活動を継続
- ・出版印刷事業は組織再編によりさらなる合理化を進め、量産型から高付加価値型への転換、収益性向上に取り組む

オリジナルコンテンツ



- ・コンテンツの拡充、販売チャネルの拡大による売上創出、自社ブランド等を生かした高付加価値化に取り組む
- ・事業拡大ペースを上げ、費用先行を解消させる

中期経営計画の進捗 キャッシュアロケーション

FY2025のキャッシュアロケーション(FY2025－FY2030の初年度)

キャッシュイン

キャッシュアウト

政策保有株式売却 40億円程度 (～FY2030 100億円程度)	借入金の返済
	株主還元 27億円 (～FY2030 120億円以上)
営業CF 60億円程度 (～FY2030 450億円程度)	成長投資 (人的投資、研究開発含む) 既存事業の構造改革 生産効率向上 50億円程度 (～FY2030 成長投資240億円)

キャッシュイン

- ・概ね想定通りに推移。

キャッシュアウト

- ・株主還元は、自己資本配当率(DOE)による配当および自己株式取得を実施。
- ・チューブ製造設備の増強や情報セキュリティ部門における既存事業の生産性向上投資等を実施。
- ・FY2026は、成長投資として外部連携の強化、事業機会の探索を目的とした出資を予定。

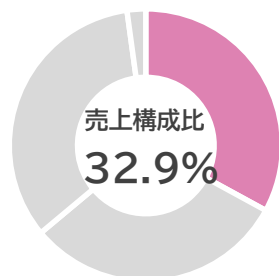
**V 2026年3月期 実績
2027年3月期 予想**

2026年3月期 連結業績の概況

情報コミュニケーション部門は、採算性を重視した受注活動の推進により収益性は改善するもオリジナルコンテンツの費用が先行し黒字には至らず
 情報セキュリティ部門は、情報サービスBPOは堅調に推移したが、交通系ICカードとデータプリントが減少
 生活・産業資材部門は、化粧品向けチューブや軟包装が好調に推移し、価格是正も進展

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前期比	期初業績予想 2025年5月15日開示	達成率
売上高	99,977	98,205	△1.8%	103,500	94.9%
情報コミュニケーション	34,658	32,344	△6.7%	34,800	92.9%
情報セキュリティ	30,755	30,478	△0.9%	32,500	93.8%
生活・産業資材	32,331	33,170	2.6%	34,000	97.6%
その他	2,231	2,211	△0.9%	2,200	100.5%
営業利益	2,331	2,134	△8.4%	2,800	76.2%
情報コミュニケーション	△176	△222	—	△150	—
情報セキュリティ	1,954	1,128	△42.3%	2,250	50.1%
生活・産業資材	1,211	1,521	25.7%	1,650	92.2%
その他(調整分含む)	△657	△293	—	△950	—
経常利益	2,746	2,727	△0.7%	3,250	83.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,310	3,960	19.6%	3,850	102.9%

決算概要 情報コミュニケーション部門



	単位:百万円	前期比	業績予想比
売上高 :	32,344	(Δ6.7%	Δ7.1%)
営業損益:	Δ222	(-	-)

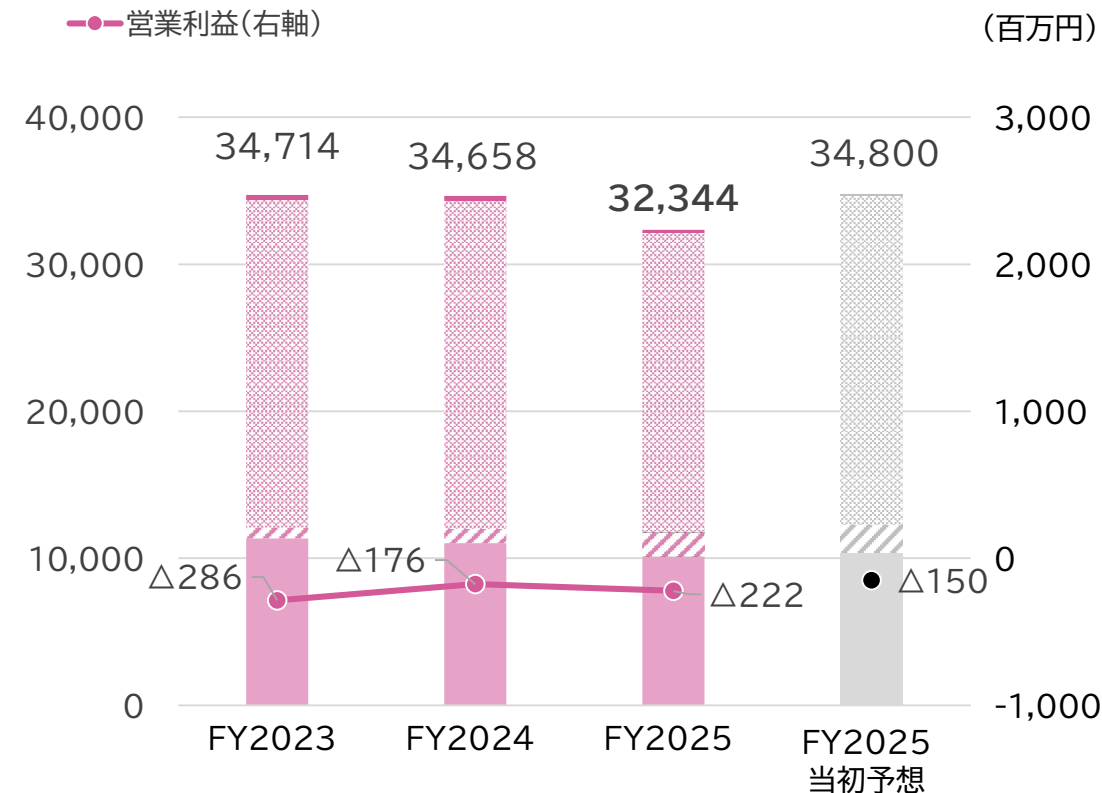
※業績予想比は2025年5月15日開示の業績予想との比較

● 主なポイント

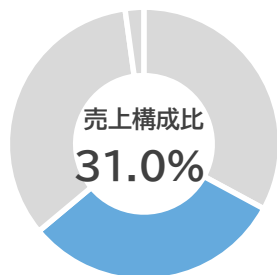
- ▶ 売上高は、出版印刷、一般商業印刷事業それぞれで採算性を重視した受注活動を行った結果、減少。
- ▶ 利益面では、出版印刷、一般商業印刷事業の赤字は解消し黒字化に至るも、オリジナルコンテンツ事業は費用が先行し、損失幅が拡大。
- ▶ 業績予想に対してはオリジナルコンテンツ事業の拡大が想定に届かず、売上高・営業利益ともに下回り。

● 品目別売上増減イメージ

- その他
- ▨ 一般商業印刷(情報誌・POP等)
- ▨ オリジナルコンテンツ(電子書籍含む)
- 出版印刷(定期刊行物・書籍)
- 営業利益(右軸)



決算概要 情報セキュリティ部門



単位:百万円 前期比 業績予想比

売上高 : **30,478** ($\Delta 0.9\%$ $\Delta 6.2\%$)

営業損益: **1,128** ($\Delta 42.3\%$ $\Delta 49.9\%$)

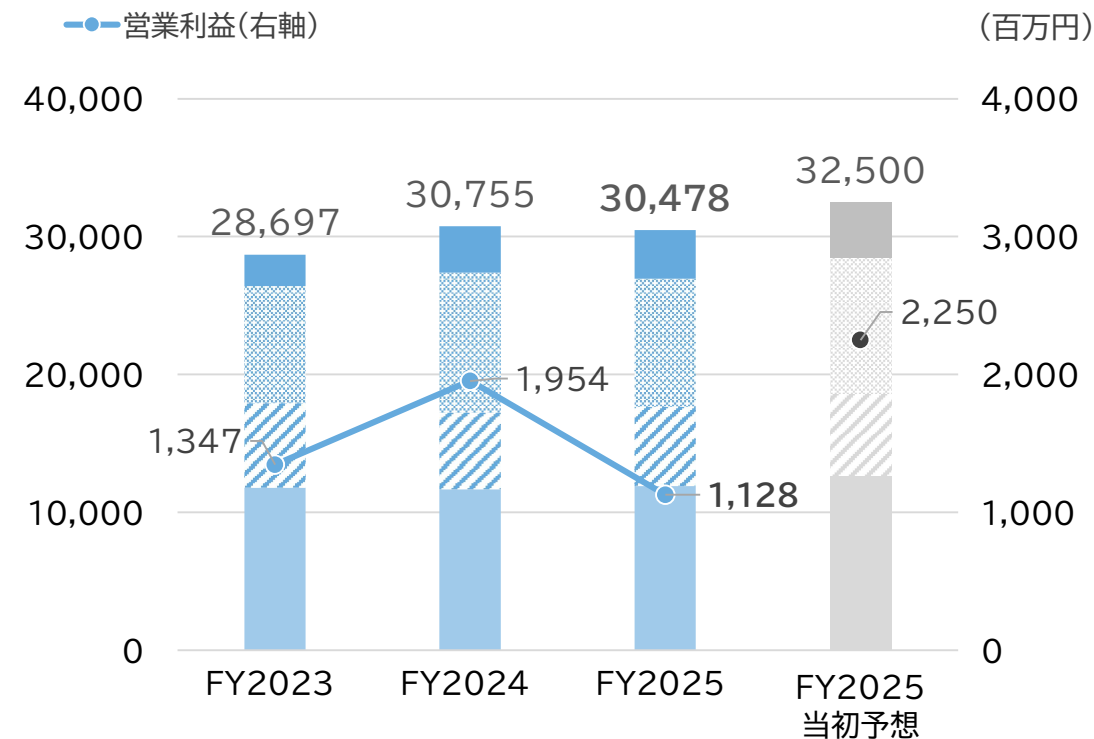
※業績予想比は2025年5月15日開示の業績予想との比較

● 主なポイント

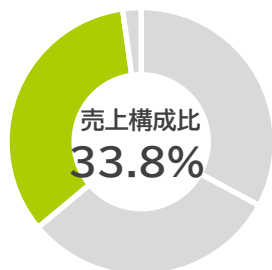
- ▶ 売上高は、ヘルスケア分野や金融分野に向けた情報サービスBPOは堅調に推移したが、交通系ICカードとデータプリントが減少。
- ▶ 営業利益は、コスト削減に一定の成果があったが、物流費などの価格転嫁の遅れと、前年度にあった自治体向けBPOの一過性案件が減少。
- ▶ 業績予想に対しても、売上高・営業利益ともに下回り。

● 品目別売上増減イメージ

- その他(決済ソリューションサービス含む)
- カード
- 証券類(宝くじ・乗車券等)
- BF(データプリント・BPO等)
- 営業利益(右軸)



決算概要 生活・産業資材部門



	単位: 百万円	前期比	業績予想比
売上高	33,170	(+2.6%	△2.4%)
営業損益	1,521	(+25.7%	△7.8%)

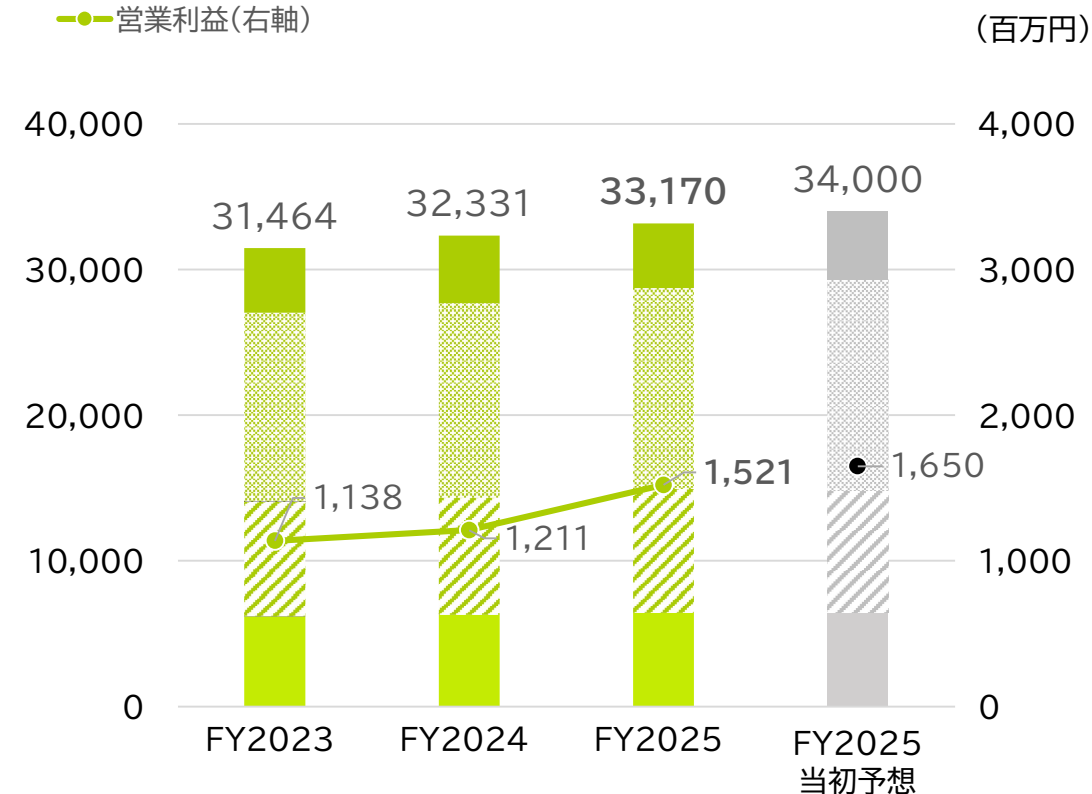
※業績予想比は2025年5月15日開示の業績予想との比較

● 主なポイント

- ▶ 化粧品向けチューブの新規受注や、フィルム包材、リキッドパッケージなどの軟包装をはじめ、全般的な価格是正の進展により、売上高、営業利益ともに前年比で増加。
- ▶ 業績予想に対しても概ね想定通りに推移。

● 品目別売上増減イメージ

- その他(産業資材・建材等)
- チューブ・ブローボトル
- 軟包装
- 紙器
- 営業利益(右軸)



決算概要 2027年3月期 業績予想

		第2四半期			通期		
		(百万円)	前期実績	業績予想 (伸長率)	前期実績	業績予想 (伸長率)	
売上高			47,601	49,000 (102.9%)	98,205	101,000 (102.8%)	
[内訳]	情報コミュニケーション		15,183	15,700 (103.4%)	32,344	34,000 (105.1%)	
	情報セキュリティ		15,079	15,100 (100.1%)	30,478	29,500 (96.8%)	
	生活・産業資材		16,235	17,100 (105.3%)	33,170	35,300 (106.4%)	
	その他		1,102	1,100 (99.7%)	2,211	2,200 (99.5%)	
営業利益			612	850 (+237)	2,134	2,500 (+365)	
[内訳]	情報コミュニケーション		△442	△150 (+292)	△222	450 (+672)	
	情報セキュリティ		628	750 (+121)	1,128	1,250 (+121)	
	生活・産業資材		681	650 (△31)	1,521	1,700 (+178)	
	その他(調整分含む)		△254	△400 (△145)	△293	△900 (△606)	
経常利益			1,003	1,100 (+96)	2,727	2,950 (+222)	
親会社株主に帰属する当期純利益			1,351	1,700 (+348)	3,960	4,200 (+239)	

VI 株式情報・株主還元施策

株式情報 各種取り組み

株主還元 / 株式流動性向上 / IR強化

2026年3月期の取り組み

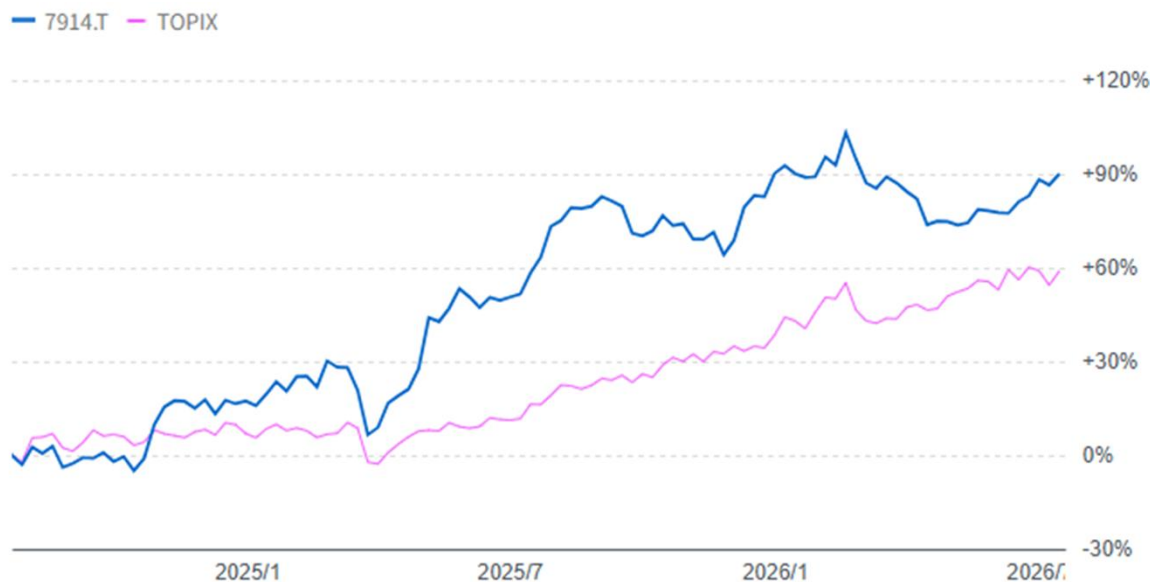
- ◎ DOEによる配当：2025年度よりDOE3.5%の配当方針
- ◎ 株式分割 ： 2025年4月に1株→4株の株式分割を実施
- ◎ 株主優待拡充 ： 株式分割に合わせ、株主優待を拡充
- ◎ 売出し実施 ： 2025年12月に大株主による株式売出しを実施
- ◎ IR説明会の拡充： 個人投資家向けIR説明会開催数の増加
→三大都市開催＋日経・東証IRフェアでの会社説明会など年間5回開催

- 
- ・株主数増加(2025年3月末→2026年3月末 約2.6倍)
 - ・東証における1日平均売買代金の上昇(2025年3月期→2026年3月期 約3.4倍)

※4月1日～3月31日における1日平均売買代金を比較しています

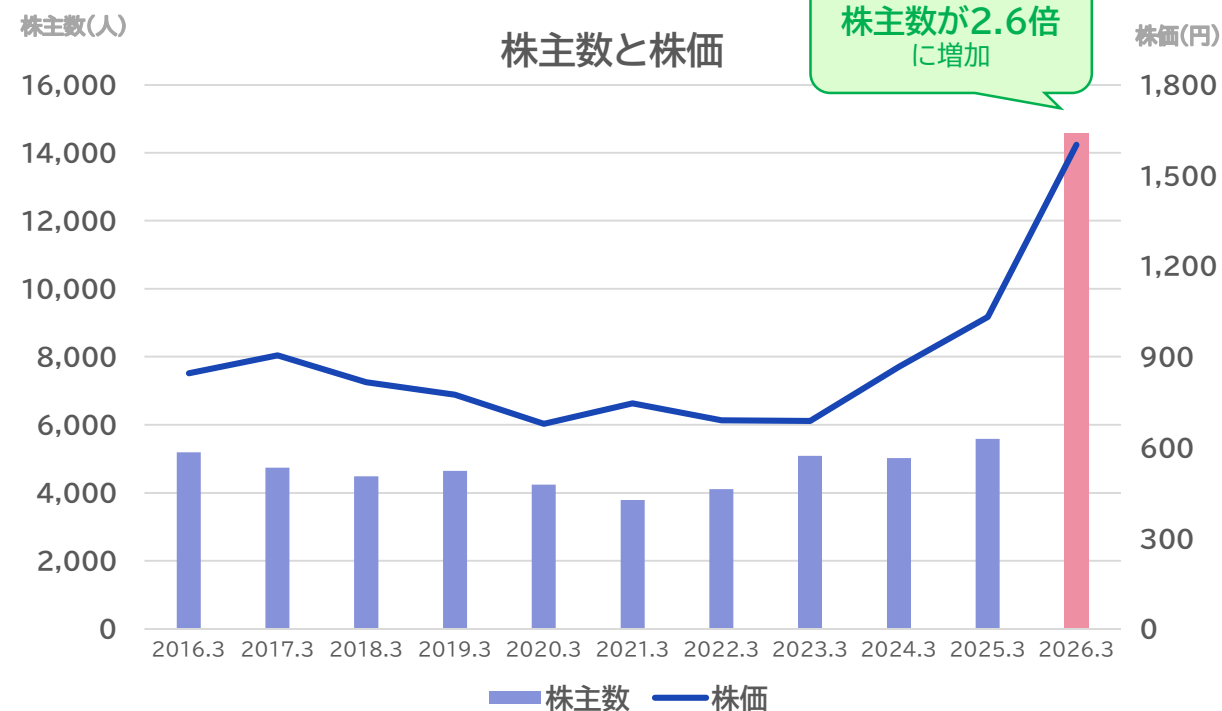
株式情報 株価 株主数と株価の推移

過去2年間の株価騰落率推移(2024年7月23日基準)



株価	1,633円(2026/07/23終値)
PER	10.75倍
PBR	0.69倍
ROE	6.18%
配当利回り	4.90%

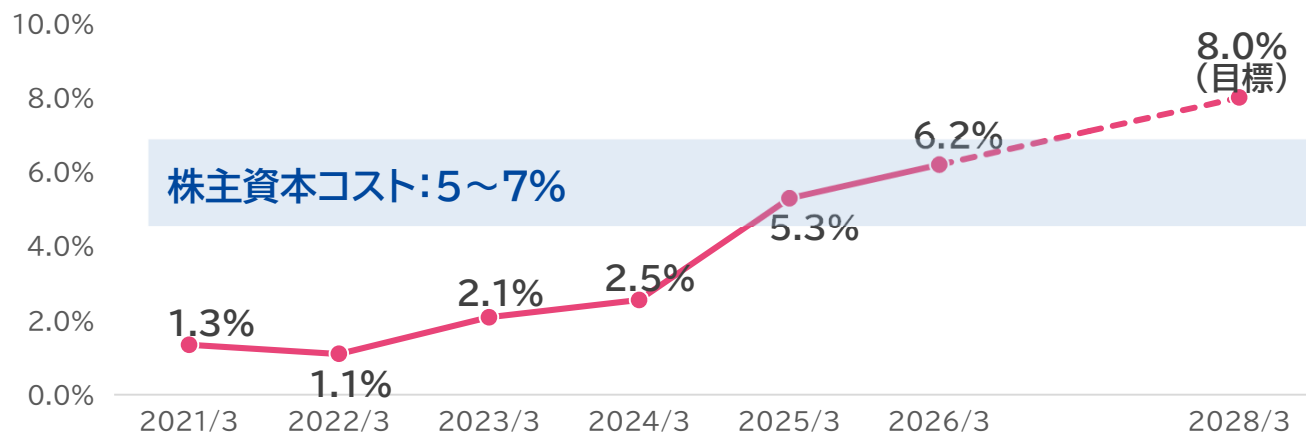
株主数と株価



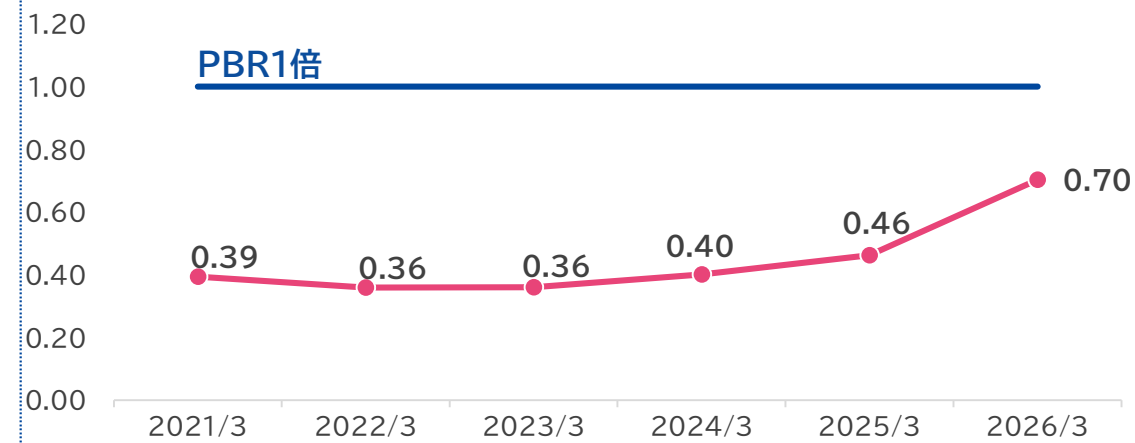
年度	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3	2026.3
株主数	5,187	4,736	4,483	4,643	4,240	3,787	4,112	5,085	5,020	5,588	14,587
株価	845	905	816	775	678	746	690	687	866	1,032	1,602

株式情報 資本コストの状況

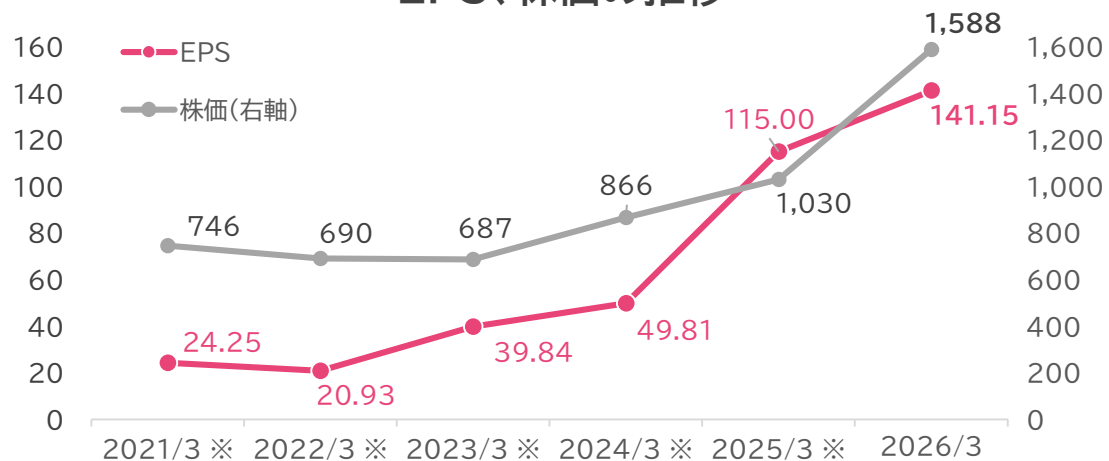
ROEの推移



PBRの推移



EPS、株価の推移



※ 株式分割実施後の割合で記載

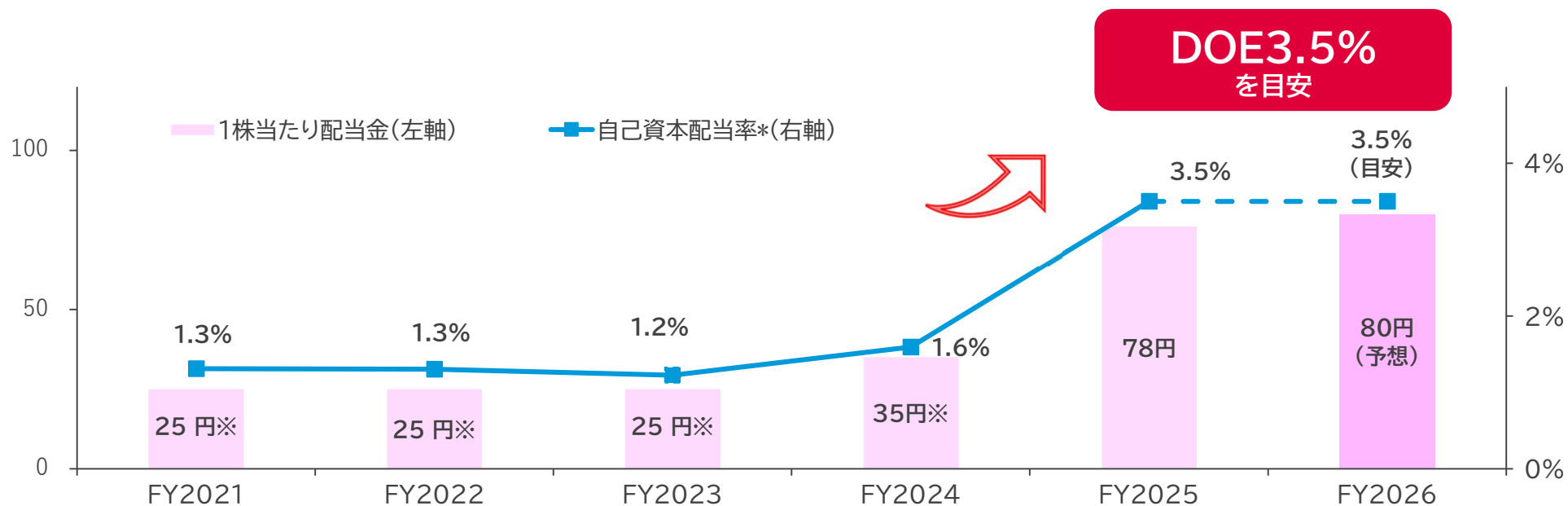
- ▶ 当社の株主資本コストは5~7%の認識。
ROEは、当期純利益の増加に伴い上昇し、株主資本コスト近辺で推移。
- ▶ PBRは、株価の上昇傾向に伴い改善がみられるものの、未だ1倍割れの状態。
市場から、事業に対する十分な評価を得られていないと認識。
- ▶ 既存事業の構造改革、成長事業への投資による収益性強化、積極的なIR活動を通じて更なる株価の上昇、PBRの引き上げを目指す。

株主還元 配当予想

●2027年3月期の配当について

以下の方針に基づき1株あたり80円(中間40円、期末40円)の見通し

- ・企業価値の向上と安定的な株主還元を実現するため、自己資本配当率(DOE)3.5%を目安とする
- ・中間、期末いずれも、期初に(前期末自己資本+当期末予想自己資本)÷2×1.75%を目安に配当予想
- ・期初予想どおりの配当支払いを基本とし、業績、財務状況等の推移を勘案のうえ、中間配当+期末配当がDOE3.5%を大きく下回ることのないよう配当を実施する



※2024年度以前の配当金は株式分割後の数値に換算

株主還元 株主優待

2026年3月期期末オリジナルQUOカード(1,000円券)

●株主優待は以下の内容でお届けしています

QUOカード(毎年3月31日および9月30日基準日)

保有株式数	優待品の内容
200株以上を継続して6か月以上保有(注1)	当社オリジナルQUOカード500円相当
400株以上を継続して6か月以上保有(注2)	当社オリジナルQUOカード1,000円相当
1,000株以上を継続して6か月以上保有(注3)	当社オリジナルQUOカード3,000円相当

(注1)「200株以上を継続して6か月以上保有」とは、各基準日(3月31日および9月30日)現在の株主名簿に200株以上の保有記録が同一株主番号で2回以上連続している場合をいいます。

(注2)「400株以上を継続して6か月以上保有」とは、各基準日(3月31日および9月30日)現在の株主名簿に400株以上の保有記録が同一株主番号で2回以上連続している場合をいいます。

(注3)「1,000株以上を継続して6か月以上保有」とは、各基準日(3月31日および9月30日)現在の株主名簿に1,000株以上の保有記録が同一株主番号で2回以上連続している場合をいいます。

カレンダー(毎年3月31日基準日)

保有株式数	優待品の内容
200株以上(希望される方)	当社オリジナルカレンダー



2026年版オリジナルカレンダー(表紙)

参考資料

共同印刷グループ製品のご紹介

生活・産業資材セグメント取扱製品

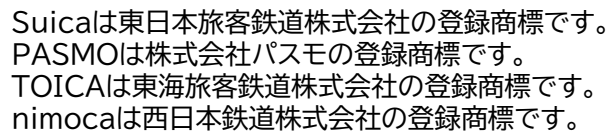
■パッケージ(紙器・軟包装)



■チューブ(ラミネートチューブ・ブローチューブ)・ブローボトル



■各種ICカード



This collage features a variety of Japanese stationery items:

- Business Cards:** Several cards are shown, including a dark grey one with a gold Visa logo and Japanese text, and a white one with a red ribbon graphic.
- Forms and Documents:** A large white form titled "高血圧症が顕化したケース" (Cases of Hypertension Manifesting) is prominent, along with a form titled "脂質異常症が顕化したケース" (Cases of Lipid Abnormalities Manifesting).
- Cards and Posters:** A red card with white text, a white card with a red ribbon, and several colorful cards with illustrations of people and text are included.
- Calendars:** Three spiral-bound calendars are visible at the bottom, featuring different themes and designs.

情報コミュニケーションセグメント取扱製品

■ 出版商業印刷物



当資料は、投資家の皆さまに共同印刷株式会社への理解を深めていただくことを目的として、
経営や財務に関する情報を提供するものです。

以下の点をご了解の上、ご覧ください。

- ・業績予想などは、作成時点において当社が予測する範囲内で作成したものです。
- ・記載の業績予想などとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでいることをご承知ください。
- ・投資に関する決定は、投資家ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- ・掲載内容については細心の注意を払っておりますが、不可抗力によって情報に誤りを生ずる可能性もありますので、ご注意下さい。

【お問い合わせ先】

共同印刷株式会社 広報・IR部

E-mail: 7914_ir@kyodoprinting.co.jp

Webサイト: <https://www.kyodoprinting.co.jp/>